

## 令和4年度第2回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和4年10月27日(木) 午後6時30分～7時30分
- 2 開催方法 Web会議システムによるオンライン開催
- 3 出席者 <委員>  
寺嶋委員、雄谷委員(田邊委員代理)、塚本委員、斎藤委員、鈴木委員、鶴浦委員、油山委員、志寒委員、樋口委員、村山委員、今井委員  
吉岡委員(高齢施策担当部長:部会長)、阿部委員(高齢者支援課長)、平川委員(高齢社会対策課長)、風間委員(介護保険課長)  
<事務局>  
高齢者支援課
- 4 公開の可否 オンライン会議のため非公開
- 5 次第
  - 1 開会
  - 2 練馬区における認知症相談支援の状況
  - 3 令和4年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組みについて
  - 4 介護と仕事の両立支援チラシの作成について
  - 5 認知症ガイドブックの改訂について
  - 6 その他
    - (1) 第15回認知症フォーラム
    - (2) 練馬区在宅療養推進協議会所属団体の在宅療養推進に資する取組
- 6 資料
  - 資料1 練馬区における認知症相談支援の状況
  - 資料2 令和4年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組みについて
  - 資料3 介護と仕事の両立支援チラシの作成について
  - 資料4 認知症ガイドブックの改訂について
  - 参考1 チームオレンジ活動参加登録について
  - 参考2 仕事を続けながら介護をするために
  - 参考3 第15回認知症フォーラムチラシ
  - 参考4 練馬区在宅療養推進協議会委員所属団体の在宅療養推進に資する取組
- 7 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅介護支援係  
電話 03-5984-4597

## 8 会議の概要

(部会長)

【挨拶、新委員の紹介】

(事務局)

## 【出席確認、資料確認】

(部会長)

次第1資料1 練馬区における認知症相談支援の状況について報告を。

(事務局)

【資料1】について説明。

(部会長)

資料1について意見や感想はいかがか。

(委員)

初期集中支援チームによる会議を、年間9回開いている。地域包括支援センター内3職種はいるが、やはりドクターから意見をいただきたいとき、違う視点はないかというときは、初期集中支援チームの会議がとても心強い存在であると、担当している職員の間で感想があがっています。

(委員)

当病院は認知症治療病棟をもっているが、病院全体に来る認知症相談は地域包括支援センターだけでなく都内のクリニックや練馬区内の施設からの入院相談もあるが、やはり区内の地域包括支援センターとの連携が数的に多い。当病棟では入院後、病状説明など、ご家族や地域包括支援センターなどを含めて行い、地域性をもって地域に密接につながった入院治療をやっていきたい。練馬の地域包括支援センターからの相談は非常に有難く、相談も受けやすい。

10年くらい前は、地域包括支援センターは病院とうまく連携が取れていなく、地域包括支援センターは入院させたらおしまいと、入院させた職員がよかったと帰りにバンザイして帰ったという話を聞いたくらいだったが、最近ではかなり地域包括支援センターも病棟の合同面接に来てくれ、退院の際にも協力してくれている関係が、少しずつできてきていて、区内では良い関係が作れている。そういう意味で言うと、他区の地域包括支援センターからの相談とは違い、僕らも地域性を重視した入院相談を受けていきたい思いがあります。

(部会長)

認知症相談支援を通じて、地域包括支援センターが多職種連携の取り方を徐々に身につけてきていることに事業を継続してきた意義があるように思います。

(委員)

認知症の診療には、疎い立場にいますので、お年寄りで、認知症のあるような患者さんには認知症のことを診てもらえる先生へ、ご家族も巻き込んで受診していただくようにしています。

当院には15年ほど地域包括センターでケアマネジャーの仕事をした職員もいますので、地域包括支援センターの方々がどれほど大変な仕事をしているかは本1冊書けるくらい話を聞いています。

今回、練馬区医師会でも、もの忘れ検診等を行うのですが、その結果で、認知症の、もしくは認知症の疑いがあるという判断が下れば、地域包括支援センターの方にお任せすることになるので、とても大事であり、とても負担がかかっている部署だと認識するようになりました。

( 部会長 )

ありがとうございました。

( 部会長 )

次第2資料2 令和4年度チームオレンジ活動および本人発信支援の取組みについて説明を。

( 事務局 )

【資料2】について説明。

( 部会長 )

資料2について意見や感想はいかがか。

( 委員 )

チームオレンジ活動の参加登録についてですが、30名程度の方が登録なさっているということですが、こういったボランティアを目的としてこれに参加してくださいと案内すればいいのか。現在のボランティアの活動内容などを教えていただきたい。

( 事務局 )

チームオレンジ活動は、昨年度から取り組んでいるが、一般の区民の方にサポーターとしての参加を募る取組みは今年度からはじめている。各地域包括支援センターで取り組んでいるチームオレンジ活動の中では、本人ミーティングなどの活動の場所への行き帰りに、歩いて付き添ったり、本人ミーティングの話し合いの輪に参加するという活動が一番多い。また、ご本人のお好きな活動、演奏が得意な方の場合は、一緒に演奏するなど活動の場に参加する形のボランティアが一番多い。また、サポーターとしての活動を希望される方は、ご自分の特技を活かしたいというようなご希望で登録してくださる方も多いように見受けられる。チラシを作成し、認知症サポーター養成講座や高齢者支え合いサポーター育成研修、各地域包括支援センターにおいて、配布をしています。

( 委員 )

関町でも本人ミーティングで送り迎えという話は聞いていた。だいたい理解できました。参加登録用フォームというのが高齢者の得意としないスマホ経由、ネット経由というのは、なぜなのかと思いました。

( 事務局 )

時代も反映し、電子申請の方式をとっているが、紙による登録も平行して行っている。

(委員)

オンラインの専門部会で発言の際にも、機器の操作には不慣れなところがあり、不安に思いつつもフォローを受けながらオンラインの認知症サポーター養成講座を実施した。普段の50人程集まる集合形式の講座より、受講される方がとても近い感じがして、やり取りなどもしっかりできた。真剣に皆さんが聞いてくださるのが、ワイプで確認ができて、こちらも一生懸命に講座をさせていただいた。なかなかお集まりいただけない中で、家で自由な形で参加をしていただける機会がもっと増えるといいなと思っています。頻度としては、多くはできないのかもしれませんが、また、事務局にご協力いただければ、ぜひやらせていただきたいと思います。

(部会長)

10代の参加者も複数いたということで、集合形式の講座とは異なる良さがありました。集合形式とオンラインそれぞれの良さを活かしてサポーターを増やしていければと思います。引き続きご協力よろしくをお願いいたします。

(部会長)

次第3 資料3 介護と仕事の両立支援チラシの作成について説明を。

(事務局)

【資料3】について説明。

(部会長)

資料3について、意見や感想はいかがか。

(委員)

仕事をしながら介護をされる方は、ぎりぎりの状態で関わっている方が多く、このストレスチェックシートで簡単にチェックができて、ご自身のことがわかるのはとてもいいことだと思いました。質問ですが、図書館や地域包括支援センターで配布とあるのですが、練馬区のホームページなどでこのチェックシートの掲載はあるのでしょうか。

(事務局)

チラシはホームページにも掲載し区民の方にもご覧いただけます。

(委員)

ありがとうございます。ご家族の方へケアマネジャーの立場からご案内等させて頂きたいと思います。

(委員)

高齢の方への訪問が多くて、そこで介護している方も高齢という方が多いので仕事との両立という所であまり相談を受けたことがない。お仕事をされている場合はケアマネジャーが支援を整え、今のサービ

ス以上にその方が働きやすい環境を整えてくださっているというのが一般的な現状かと思います。このように、仕事を始めた方でも介護のストレスチェックを定期的に行いながら、その方が介護を続けられるように私たちがチェックすることがとても重要なことだと思います。またそれをケアマネジャーやドクターと共有しながら、みんなで支えていくというのが大事だと考えました。活用させて頂きたいと思いません。

(委員) 機器不調のため通話できず、後日追加

認知症デイサービスでは、一般のデイサービスに通所されていた方の症状が進行し、次の通所先として選ばれることが多い。そのため、家族から相談される内容は、介護離職の問題を既に通過し入院によるADLの低下や自宅での看取りに関することが多い。問題が深刻化する前に何とかできれば良いと思う。退院後の通所先としての利用など、早期に認知症デイサービスも活用されると良いと思います。

(部会長)

次第4 認知症ガイドブックの改訂について説明を。

(事務局)

【資料4】について説明。

(部会長)

資料4についてご意見や感想はいかがか。

(委員)

認知症ガイドブックは当院でも入院中の方とか外来初診でいらした方に持って行っていただけるように外来に置かせていただいて活用しています。引き続きこちらでも利用させて頂きたいと思えます。特に、仕事と介護の両立のチラシは、初診でいらっしゃって、これから先どうしていいかわからないご家族もたくさんいらっしゃるので、お仕事と両立しなければいけないと思っている方もいらっしゃるかもしれないので、良い情報提供になると思えます。

(委員)

配布場所について主な配布場所が地域包括支援センターと区役所アトリウムとあるのですが、ぜひ薬局や医療機関でも配布場所として置かせていただけたらと思っております。よろしく願いいたします。

(委員)

仕事と介護の両立は非常に重要な分野で、私自身ケアマネジャーの資格は持っていますが、仕事を続けるためのサポートは疎い部分もあり、こうしたリーフレットがあるのは大変ありがたいと思っております。先ほどの意見にもありましたが、幅広く置いていただいて、「まずは地域包括支援センターに相談を」というチラシを地域包括支援センターに置いても仕方が無いので、薬局や労働者の相談窓口でサンライフ練馬など手に取れる場所にたくさん置いてもらって、本当に困ったことがあったらこういう制度がある

のだなと知ってもらうには良いリーフレットだと思います。ありがとうございます。

( 部会長 )

ありがとうございました。

( 部会長 )

次第 5 その他 ( 1 ) 第 15 回認知症フォーラムについて説明を。

( 事務局 )

【資料 5】について説明。

( 委員 )

当法人では介護相談の電話相談を主としてやっております。介護相談も年々方向が変わってきて、基本的には介護する人とされる人が一緒になって話し合いをして理解をしていくことがとても大事だと考えて、テーマを立ち上げて計画しました。講師がわかりやすく皆さんにお話しを届けてくださると思います。

( 部会長 )

ありがとうございます。皆さん積極的に参加して頂ければと思います。よろしくお願ひいたします。

( 部会長 )

次第 5 その他 ( 2 ) 練馬区在宅療養推進協議会委員所属団体の在宅療養推進に資する取組について説明を。

( 事務局 )

【参考 4】について説明。

( 部会長 )

全体をとおして、発言等はいかがが。

( 委員 )

先ほど地域包括の話がありましたので、一言お話をさせていただければと思います。10 年前と比べて、地域包括支援センターの対応が良くなっていると有難いお話をいただきました。地域包括支援センターは、10 年前は高齢者相談センターとの名称で本所・支所の体制でした。平成 30 年から現在の 25 か所の本所体制へ拡充したところがございます。これまで地域包括支援センターが使いやすくなるようにと、区立施設への移転等を進めてきたところですが、来年 4 月に新たに 2 ヶ所の地域包括支援センターを増設する予定です。区内で 27 か所の体制で一層近くの、ご利用しやすい窓口にすることで支援体制を強化していきたいと考えています。また引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

( 部会長 )

練馬区では現在第 9 期の練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に向けた調査をこの 11 月から開始する予定です。お声がかかりました時には、回答をお願いします。第 9 期策定については、委員の皆様から様々なご意見をいただくなど協力をお願いします。

( 部会長 )

他に、ご意見やご質問はいかがか。

( 委員 )

以前、認知症フォーラムの際には練馬区介護サービス事業者連絡協議会は相談窓口として協力をさせていただいたことがあるが、今回の認知症フォーラムについてはいかがでしょうか。

( 委員 )

今回は、団体の取組みの紹介という形で協力をいただく予定です。色々な意味で皆さんに参加していただいて、一緒に学んで行きたいなと思っております。

( 委員 )

協力ができることがあればおっしゃって下さい。練馬区介護サービス事業者連絡協議会でも共有してぜひ参加させていただきます。よろしくお願いします。

( 部会長 )

次回日程について説明を。

( 事務局 )

今回は令和 5 年 1 月 19 日 ( 木 ) を予定しています。オンラインを予定しています。

( 部会長 )

【挨拶】

閉会